



## 教育学と心理学でよく使われる用語の理解

著者	KUMAR Surender, KIM Yong Seob, OH Kun Seoku
雑誌名	筑紫女学園大学研究紀要
号	14
ページ	123-129
発行年	2019-01-31
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1219/00000985/">http://id.nii.ac.jp/1219/00000985/</a>

# Comprehension of various terms used in Educational Psychology

教育学と心理学でよく使われる用語の理解

Surender KUMAR, Yong Seob KIM, Kun Seok OH

筑紫女学園大学研究紀要 第14号別刷

2019年1月

福岡県太宰府市石坂

Reprinted from *Journal of Chikushi Jogakuen University*

No. 14, pp. 123 – 129, January 2019

Ishizaka, Dazaifu-shi,

Fukuoka-ken, Japan

# Comprehension of various terms used in Educational Psychology

## 教育学と心理学でよく使われる用語の理解

Surender KUMAR, Yong Seob KIM, Kun Seok OH

### Abstract

教育や心理学の中では多数の用語が使われている。そのままの意味ではないことが多く、人間の心理的状态に適応した特徴を持つ意味がよくつかわれる。この論文では、子どもの運動、知能、情緒、遊びや対人関係の発達、学習過程、人格、行動、感情、精神的病理、気分の異常、ストレス、不安、精神障がい、知能検査などに使われる用語の明確な理解ができる。

### 趣旨

教育心理学、子どもの保健、心理カウンセリングという科目ではよくつかわれる用語が多数ある。その用語そのままの意味ではないことが多くある。この論文ではできるだけ様々な用語の説明を明確にすることが研究課題である。重要なものは以下の通りである。

実現傾向 (Actualizing tendency)：カールロージャズによって、人間の最少動機は食べ物や飲み物の基本ニーズを元にした個人の体験や自己の実際表現である。

感動させる (Affect)：覚醒を含めた個人の積極的、消極的感情の状态と行動の表現、感情の同意語。

侵略行為 (Aggression)：他人や生き物を傷つけるような言語や身体的な行動。

広場恐怖症 (Agoraphobia)：逃げられない場所や状態に置かれることの恐怖。

アルコール (中毒) 症 (Alcoholism)：社会的や職業的な活動に悪影響を与えるアルコールの使用。

アルツハイマー病 (Alzheimer's disease)：老年期に見られる進行性があり、治らない重い病気で、記憶、論法、視覚、言語と行動に関わる神経細胞の欠陥。

両価性 (Ambivalence)：同一対象に対して矛盾する感情や評価を同時に抱えている精神状態。

神経性無食欲症 (Anorexia nervosa)：食事を拒否する拒食症で、身体的に悪影響を及ぼすような個人の食事の拒否。ときどき死に至ることもある。

非社会的人格障がい (Antisocial personality disorder)：様々な領域で指摘される無責任と破壊的な非社会的行動。

心配症又は不安症 (Anxiety disorder)：行動減少を促進する、激しい、しばしばの継続的な不安。

同化と調節 (Assimilation and adjustment)：人間の行動は究極的に適応的なところへ向かい、それは同化と調節という2つの側面を持っている。同化と調節はピアジェの発達理論の基本要素である。同化とは、個体がすでに持っている反応様式や認知に照らして、外界を取り込んだり消化したりする働きのことである。調節とは、すでに身に付けた反応様式や知識では処理できないような事

象に出会った時、それらの様式や知識を修正する働きのことである。同化と調節は表裏の関係にあり、ひとつの行動には両者の働きが同時に含まれている。また、身体的な反応様式や知識の基底にあり、それを働かせ方向づけるシエマは個体の中にセットされた一般的な行動図式、または一般的な枠組みとすることができる。このシエマの変化がすなわち発達というものであり、この変化に同化と調節の2つ種類で、発達を進行させていくメカニズムとなる。

愛着 (Attachment)：保護者と子ども間の絆を元にした後天的な愛情関係。

愛着動機 (Attachment motivation)：愛着関係者に対して身体的心理的接近のための意欲。

注意欠陥多動性障がい (Attention-deficit hyperactivity disorder)：発達障がいとして知られている子どもの年齢不適當な不注意、衝動性と多動性。

態度 (Attitude)：人や物事に対する心構えや理解。

立論／増加 (Augmentation)：帰属現象で、状況圧力と関係なく個人が行動に対して強調する内面的な説明説得。

自動感 (Automatization)：最低限の注意で行われる精神過程の増加した判断。

回避学習 (Avoidance learning)：予想される行動改善のため嫌悪な強化による行動を回避する否定強化の過程。

片言 (Babbling)：乳幼児の初期の喃語として完全ではない単語の言い方。

基本信頼性と疑念 (Basic trust versus mistrust)：エリクソンの発達理論で、乳児期で子どもの他人と信頼性が形成される時期や不親切又は信頼できない社会外界の理解。

行動神経科学 (Behavioral neuroscience or biopsychology)：動機、感情、ストレスなど物質的心理現象の研究領域で、生物心理学とも言う。

生体自己制御 (Biofeedback)：脳波や血圧などを手がかりに自分の体調を制御する研究領域。

境界域人格障がい (Borderline personality)：非常に不安定な対人関係、気分の急の変化、物事の認識の悪さ、放置されることの恐怖感、人などを巧みに操作するなどの能力の人格障がい。

ブローカ野 (Broca's area)：前頭葉の左側にある言葉を発するときに必要な口や手の動きをつかさどる役目を果たす脳の部位。

症例研究 (Case study)：患者（実験）について個人またはグループで徹底的に研究や観察をすること。

大脳半球 (Cerebral hemisphere)：脳の表層を2つに分ける基本的な神経節と辺縁系の構造。

古典的条件づけ (Classical conditioning)：パブロフの研究をはじめとし、ある刺激に対して、なんらかの特定の反応を引き出す学習方法を古典的条件づけと言う。

来談者中心療法 (Client-centered therapy)：カール・ロジャースの提唱で、カウンセラー側の知識量、権威は不必要とされ、カウンセラーの態度や肯定的関心、共感的理解、自己一致がどう実現するかが重視される。

閉合 (Closure)：ゲシュタルトの7法則の一つで、閉じた形のもは一つのグループだと知覚する傾向があること。

認知的不協和 (Cognitive dissonance)：個体がある事項について矛盾した認知

もしくは知識をもっている状態のこと。

認知のゆがみ (Cognitive distortion)：実際よりも大げさで、非合理的な思考パターンのこと。

認知療法 (Cognitive therapy)：人間が成長するにつれ、固定されたスキーマが形成され、それに基づいてゆがんだ思考や考えが自然に浮かぶ自動思考が起こっており、そうした認知のゆがみに焦点をあてて認知を修正する療法。

認知的無意識 (Cognitive unconscious)：思考のほとんどが無意識であるということ。

認知行動療法 (Cognitive behavioral)：臨床心理的なアプローチで、古典的条件づけとオペラント条件理論を通して社会の中で通用する認知の応用。

社会的認知理論 (Cognitive-social theory)：行動に関して、社会的学習や考えの役割を強調する学習理論である。

条件反応 (Conditioned response, CR)：学習の一種で、一度経験したある物事その人の行動に影響を及ぼすというもの。

条件刺激 (Conditioned stimulus, CS)：古典的条件づけによる学習で、後天的条件付けによって提示される無条件の刺激で、それに対する反応が示される。

行為障がい (Conduct disorder)：反社会的、攻撃的な行動パターンを特徴とし、年齢にふさわしい社会の決まりや規則を大きく逸脱している状態。

意識的精神過程 (Conscious mental processes)：認知、感覚、刺激の本質的な変化のプロセス。

因習道徳 (Conventional morality)：古いしきたりや決まりから社会的にふさわしい行動をするよう学ぶこと。

コーピング／対処 (Coping)：精神的苦悩や問題に対処するための仕組みのこと。

批判的思考 (Critical thinking)：あらゆる物事の問題を特定して適切に分析する思考。

意思決定 (decision making)：ある意欲を満たし、目的を達成するために自分の判断と責任をもって適切なものを選びだすこと。

認知症 (Dementia)：脳の認知機能の障がい。

発達心理学 (Developmental psychology)：人間が生まれてから成人期までに年齢を重ねるごとにとまなう発達の変化を研究する心理学の分野。

ストレス脆弱性モデル (Diathesis-stress model)：遺伝的または非生物学的な特性が、環境の影響とどのように相互作用して精神疾患を引き起こすのか個人を観察すること。

分岐的思考 (Divergent thinking)：ある状況のなかで多様な可能性ができる能力。

二卵性双子 (Dizygotic twins, DZ)：他の兄弟と同じ特徴を持つ二卵性双生児で、二つの卵子と二つの精子の出会いで生まれる双子。

二重盲検試験 (Double-blind study)：参考者に被験者と研究者が非公開された試験や研究。

気分の動き (Drive)：フロイトによって、満足につながる内面的な緊張状態の形成。行動心理学者によれば、初期又は二次的なもので行動を促進する不快な緊張状態。

疾患マニュアル (DSM-IV)：アメリカ精神医学会 (American Psychiatric Association) が作っている、精神や心の病気に関する診断基準のマニュアル。

失読症 (Dyslexia)：学習障がい的一种で、知的能力や知覚能力には異常がないにもかかわらず、文字の読み書きが困難になる障がい。形が似た文字を区別できない、文字を読みながら同時に言葉の意味を理解することができないため読むのに時間がかかって、意図した言葉を正確に書けないなどの症状がみられる。視覚的に認識した文字や単語を音に結びつけて理解したり、単語や文節の形から直接意味を理解するプロセスに何らかの障がい起きたことによるものと考えられているが、詳しい原因は解明されていない。漢字などを計算式で細かく指導する研究もある。

気分同調症 (Dysthymia or dysthymic disorder)：2年以上続く慢性的な低い程度のうつ病で、普通気分の回復が数週間又は数カ月しか続かない精神状態。

有効性の研究 (Effectiveness studies)：研究室より現場で使われるサイコ・セラピーの結果の有効性の研究。

情緒 (Emotion)：明確な又は否定的な感覚で、覚醒、主観的な経験と行動表現を含めたもの。感動とも言う。

情緒調節 (Emotion regulation)：感情的な状態をコントロールする努力感。

感情的知能 (Emotional intelligence)：環境特に社会環境に適用する能力であって、目的達成と社会関係を満足する柔軟な方法。

共感的苦悩 (Empathic distress)：他人のことで混乱させられる感情のゆがみ。

空椅子方法 (Empty chair technique)：ゲシュタルト心理学療法で、個人が話したい人が目の前の椅子に座っているとイメージをしながら感情表現を表出する方法。

実験研究 (Experimental research)：研究者が研究デザインの中で研究要因や状況を想定し、その要因に対して対象者の反応を収集し、結果をまとめる方法。

陳述的認知 (Explicit cognition)：意識した様々な表現できる精神能力。

陳述記憶 (Explicit memory)：事実と出来事の意識した再認識。

外向性 (Extroversion)：社会的、活動的と、リスクを負う方に進む考えを持つ行動傾向。

家族セラピー (Family therapy)：心理的療法による家族間の不適応相互作用パターンの変化と改善する努力の方法。

あふれる法 (Flooding)：認知行動療法で、強度の不安をなくすために患者が現実的不安の刺激と急に出会う様な状態。

液体知能力 (Fluid intelligence)：確認できない認知要因であるが、様々な情報処理によく使われる精神又は認知能力。

形式的操作期 (Formal operational stage)：ピアジェの4番目の発達段階と知られている12歳から15歳までの発達段階で、子どもが抽象的、確信的に出来事や精神的想像の能力の発達段階。

前頭葉 (Frontal lobes)：起動、注意、計画、社会的技能、道義心、抽象的な考え、記憶と人格関係の役割を果たす全頭脳の前の部分の仕組み。

電気皮膚反応 (Galvanic skin response, GSR)：不安状態や感情的覚醒で皮膚に出てくる汗の量を測定できる電気調整器。皮膚の電気抵抗の逆数又は皮膚電位の活動ともいう (EDA)。

ゲシュタルト心理学 (Gestalt psychology)：心理学校で、ある知識を個人が自分の見方や経験によっ

て、圧倒的な全景の部分的理解をしながら、全体を把握する過程。

幻覚 (Hallucinations)：外部刺激なしにおこる様々な感覚と知覚のずれや誤り。

ハロー効果 (Halo effect)：ある個人を魅力的に思い、その人の目立つ特徴を多めに評価する傾向。

健康心理学 (Health psychology)：健康を保つ要因理解の心理学の研究分野で、どうやって健康が保たれるのか、なぜ病気になるのか又は、病気を抱えているときどのように人間が反応をするのかに関して心理的な影響を及ぼす心理的要因の理解。

人間的セラピー (Humanistic therapies)：患者が自分の意識や現在までの経験を重視した心理療法で、個人が独自に対人的又は外界との関係を体験する方法。

仮説 (Hypothesis)：ある研究の中の二つ以上変異する要因の関係の説明や予想を結果に向けて前もって推測すること。

イド (Id/Is)：フロイトの理論で、初期的な思考過程と衝動性による性的と攻撃的エネルギーの無意識範囲にある倉庫。

自我 (Ego)：フロイト精神理論の中の意識範囲の現実的な意識を持つ人格の行動要因。

暗黙態度 (Implicit attitudes)：考えや行動を無意識的又は自動的に統制する態度。

暗黙記憶 (Implicit memory)：無意識的に行動に関与される記憶。

幼児期のアメンチア (Infantile amnesia)：乳幼児期の記憶を思い出せないこと。

洞察 (Insight)：学習の理論の中に、問題とその問題を解決する関係を理解する能力。サイコダイナミクスでは、自己の心理的過程の理解のこともある。

知能力 (Intelligence)：ある文化や個人の環境の中、終了まで問題を解決するための認知技術と学習能力の使い方。

知能指数 (Intelligence quotient IQ)：18歳までの子どもの精神年齢を生活年齢で割って、100を掛けて計算した得点。

知能検査 (Intelligence test)：個人の知能的能力を他人と比較できるための検査。WISC-III、田中ビネーなどがよく知られている。

内面的妥当性 (Internal validity)：ある研究や尺度が方法論に従ってどれだけ該当するかということ。

学習 (Learning)：個人が日常生活の中様々な新しいことを体験し、その経験が学術的な知識の変化を求めることになることを学習と言う。

躁病／マニア (Mania)：気分の異常として多幸福感、精神の高揚や拡張的な異常の時期を指す。

躁病にかかった行動 (Manic)：人間の過度な楽感又は多幸福感と何でもできる気分の異常の関連性の個人の行動のことである。

メタ分析 (Meta-analysis)：統計的なデータの分析法で、研究者が多様な研究の中独立変動要因の効果の有無を調べて結果をまとめる方法。

メタ認知 (Metacognition)：認知課題に対する個人のやり方、記憶、学習や課題解決方法の認識のこと。

気分／ムード (Moods)：様々な時期や状況の中にいる時の自己の気分状態。

パニック症 (Panic disorder)：強度の恐怖感や偶然ではない日頃の出来事を突然過度的に感じ、精神的なパニック状態になること。

パーキンソン病 (Parkinson disease)：身体の過度的な動きのコントロールができない身体的な震えや動きのことをいう。高齢に見られることが多い。

音韻体系の気づき (Phonological awareness)：話す言語の中、音声信号が入力されると、その音声信号を所定の時間（フレーム）単位で区切り、フレーム単位の音声信号から特徴パラメータを取得する能力。

トラウマ (Post-traumatic stress disorder, PTSD)：日常的ではなく、心理的なストレス場面などで生じる、再燃する現象と固執思考や感情、また儀式的行動の反復性によって特徴づけられる不安障がい。

心理学 (Psychology)：人間の行動、感情、気分、想像、思考、精神過程の学術的な研究領域。

精神病理学 (Psycho pathology)：精神医学において精神病理学は、身体病理学に対応する広範な研究領域を有している。それは、精神医学的現象はすべて精神病理現象そのものだからである。もちろん、すべての精神病理現象は身体病理のうえに成立しているという考え方があり、とりわけ19世紀における生物学的精神医学研究において支配的であった。しかし、今日までの精神医学研究によると、たとえば大脳病理のうえに成り立っている精神病理現象でさえも、身体・精神病理現象の構造は無限に複雑である。

信頼性 (Reliability)：信念のある結果を出せる検査の特徴。心理検査を作成するときに問われる検査の特徴である。

統合失調症／精神分裂症 (Schizophrenia)：個人の思考、視覚、行動、言語、コミュニケーション、情動の駆動的な特徴を持った精神疾患。

自尊心 (Self-esteem)：個人が自分の好み、人に対する尊重、自己の能力をどの程度評価するかの理解。

情操 (Sentiment)：洗練され、奥深く、高尚な感情を情操と言う。精神的、文化的価値に向かう感情であり、道徳的情操、宗教的情操、美的情操などがある。

ストレス (Stress)：神経的な感情、やっかいな気分、行動や認知活動の中内外面的な要求に対する個人能力の挑戦。

超自我 (Super ego)：フロイトの夢の分析の精神理論の中の、理想的な意識の構造のこと。様々な認識体験を経て個人が身に付ける外界を理解するような活動の基本要素や能力。

## 引用・参考文献／資料 (References):

Bond, F. (2006). 日本語 WordNet.

Jack Halpern (1990). *New Japanese-english character dictionary*. Tokyo: Kenkyusha.

Kim, Y. S., & Kumar, S. (2004). Cross-cultural examination of social interactions during a one-week Doushou (Japanese psycho-rehabilitation) camp. *Psychological Reports*, **95**, 1050-1054.

Kinnear, P. R. & Gray, C. D. (2000). *SPSS for windows made sample: Release 10*. East Sussex: Psychology.



Press Ltd.

- Kumar, S., & Harizuka, S. (1998). Cooperative learning-based approach and development of learning awareness and achievement in mathematics in elementary school. *Psychological Reports*, **82**, 587-591.
- Kumar, S., & Harizuka, S. (2001). An introduction of Dousa-hou: Japanese psycho-rehabilitation process for children with cerebral palsy. *Korean Journal of Rehabilitation*, **2**, 1-10.
- Kumar, S., Harizuka, S., Imura, O., Furukawa, T., Kim, Y. S., & Kumar, H. (2005). *Dousa-hou: a Japanese psycho-therapy for children with disabilities: theory and practice*. Delhi: Academic Excellence.
- Mandal, M. K., Harizuka, S., Zamami, A., Kumar, S. (2011). The Effective World of Autism: A Review of Contemporary Evidence. *Bulletin of Center for Clinical Psychology and Human Development, Kyushu University*, **4**, 131-142.
- Myers, D. G. (1999). *Exploring Psychology, fourth edition*. NY: Worth Publishers.
- O'Donnell, A. M., Reeve, J., Smith, J. K. (2009). *Educational psychology: reflection for action, 2<sup>nd</sup> edition*. NJ: John Wiley & Sons. Inc.
- Oxford University Press (1998). *Oxford Paperback encyclopedia*. London: Market House Books Ltd.
- Takebayashi, S. (1994). *New college English-Japanese dictionary*. Tokyo: Kenkyusha.
- Weblio 英和辞典・和英辞典. <https://ejje.weblio.jp/content/electrodermal>
- 小出進『発達障害指導事典』学習研究者, 2000
- 昇地三郎『新教育心理学』ナカニシヤ出版, 1998
- 中嶋邦彦・三原征次『幼児教育の基礎と展開』コレール者, 2001

(クマール・スレンダー：筑紫女学園大学 教授)

(Kim Yong Seob : Chosun University, Gwangju, 教授 韓国)

(Oh Kun Seok : Gwangju Health Univeristy, Gwangju 教授 韓国)

